

やっぱりすごい! ジョルジオ・アルマーニの自邸を大公開

ELLE DECOR

ソファ選びに
強くなる!
家具図鑑
136

エル・デコ
10月号 OCTOBER 2013



FASHION × DESIGN

モード界がインテリアに急接近!

ファッションが
生まれる家へ!

床・壁・天井がいちばん大事!
“内側がいい”家

別冊付録「Life Design Lab」



ネンド / オンド

> vol. **3**

体温から生まれるデザイン

text & illustration
nendo / Okki Sato

連載 第3回:
ブルレック兄弟の強さは、
無敵の「バランス感覚」にある？

こんにちは。デザイナーの佐藤オオキです。
モノ作りに携わる人たちと出会い、
とりとめのない話を交わすなかで生まれてくる、
さまざまな思いや新しいアイデア。
本連載では、その雑談を自由に綴っています。
第3回のお相手は、ロナン&エルワン・ブルレックさん。
7月2日、パリにあるブルレック事務所を訪ねました。

Photos VINCENT LEROUX Cooperation EKO SATO



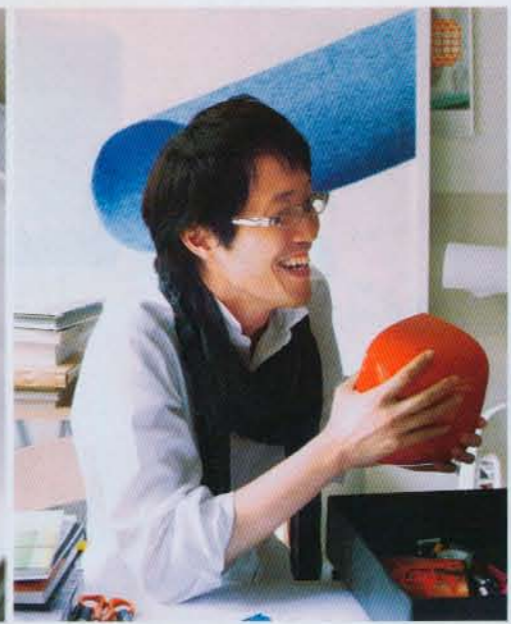
Ronan & Erwan Bouroullec

兄のロナン(左)は1971年、弟のエルワン(中)は1976年、ともにフランスのフィニステール県カンペール生まれ。'99年から共同でデザイン活動を始め、世界の第一線で活躍中。2010年にEDIDA デザイナーオブ・ザ・イヤーに輝いている。

nendo Okki Sato

1977年、カナダトロント生まれ。2002年、デザインオフィスnendoを設立。'12年、エルテコ インターナショナル デザイン アワードでデザイナー・オブ・ザ・イヤーを獲得。小さなプロダクトからインテリア空間まで、幅広いデザインを手がける。

笑顔の写真がほとんどないブルレック兄弟との撮影なので、自分も笑わない、と佐藤オオキさん。「なんでウチらっていつもあんな感じで写るんだろう?」というロナンに対し、「いいから前ちゃんと見て」と小突くエルワン。



異なる視点でバランスをとることは、
短所をつぶすにはいいけれど、
長所も損ないかねない

—エルワン・ブルレック



佐藤オオキさんが撮影した事務所のスナップ。「ナニマルキーナのラグの写真が撮られたのがこたつと気づき、少しうれしかった」



上 ブルレック兄弟がデザインしたアレッシイの「オーヴァル」で出されたコーヒーを飲みながら、会話が弾む。左下 昔の著書を探したし、ロナンがこのスケッチを描いてプレゼントしてくれた。公式ファン認定の証し。

— 見学を済ませて二人の部屋へ。ロナンの机の上には山積みの本が。一方、エルワンの机には模型材料が散らばっています。これは彼らについて考えるうえで大きなヒントになりそうです。

オオキ 本だらけですね。

兄 nendo が来るってことで、一応これでも掃除したんですけどね。普段はもっとヒドい(照笑)。

オオキ (笑) 本といえば、自分は二人の本をすべて持っていますよ、たぶん。

兄 ……、じゃあ、これは？

オオキ 持っている。

兄 (ムキになって) これは持っていないでしょ。相当、昔のものだからね。

オオキ メチャメチャ持ってます。これで自分はブルレック公式ファンに認定ですね(笑)。

— 悔しそうにロナンをよそに本棚に目をやると、なぜか本の背には白、黒、ブルーのテープが貼られています。

オオキ 本を色分けしているのは何か意味があるんですか？

兄 色？ これですか、実はよくわからない。たぶんファン(マネジメント)担当がやってくれたと思う(照笑)。

のテーブルの天板をのせたんだ。

オオキ 本当だ。カッコいいね。

弟 でしょ。このくらい広いとガンガン作業ができるんだ。

オオキ ガンガン……。

弟 僕はマシーンだからね。

オオキ マシーン……。

弟 何かをやりだしたら止まらない。縫いだししたら何日間でも縫い続けるし、パソコンでも木工作業でも同じ。それが最高に気持ちいいんだよ。そうそう。

— そう言いながら手に持った棒状のワックスをうれしうにグングンとイジっています。このままワックスに没頭しちゃったらどうしよう、と不安になりつつロナンを見ると、本棚を漁っています。やばいやばいや、「兄弟の自由時間」になっちゃったんじゃないのこれ、と思いつつも話は続きます。

オオキ デザインのアイディアは常に二人で考えるんですか？

弟 そうそうそう。どっちが先にアイディアを出すかはケースバイケースだけどね。常に二人で話し合いながら。

— エルワンは芸術家気質で、直感的なひらめきと、一気に掘り下げていく集中力が武器のようです。ソワソワしているのはその裏返しでしょうか(笑)。

オオキ 何かのインタビュ記事で「ハリネズミとキツネ」に例えられていたが、あれはどういう意味ですか？

兄 「キツネはたかさんのことを知っているが、ハリネズミはたつた一つ、重要なことを知っている」という古い言葉があり、芸術家や思想家はどちらかに大別できるという話からきています。

オオキ エルワンは自分で自分のことをマシーンと呼んでいたくらいだし(笑)、的を射ているような気も。それに守備範囲とかあるんですか？

弟 内容で分担するというより、あらゆる業務を手分けする感じ。ロナンが

「ムキになって」これは持っていないでしょ。相当、昔のものだからね。

オオキ メチャメチャ持ってます。これで自分はブルレック公式ファンに認定ですね(笑)。

— 悔しそうにロナンをよそに本棚に目をやると、なぜか本の背には白、黒、ブルーのテープが貼られています。

オオキ 本を色分けしているのは何か意味があるんですか？

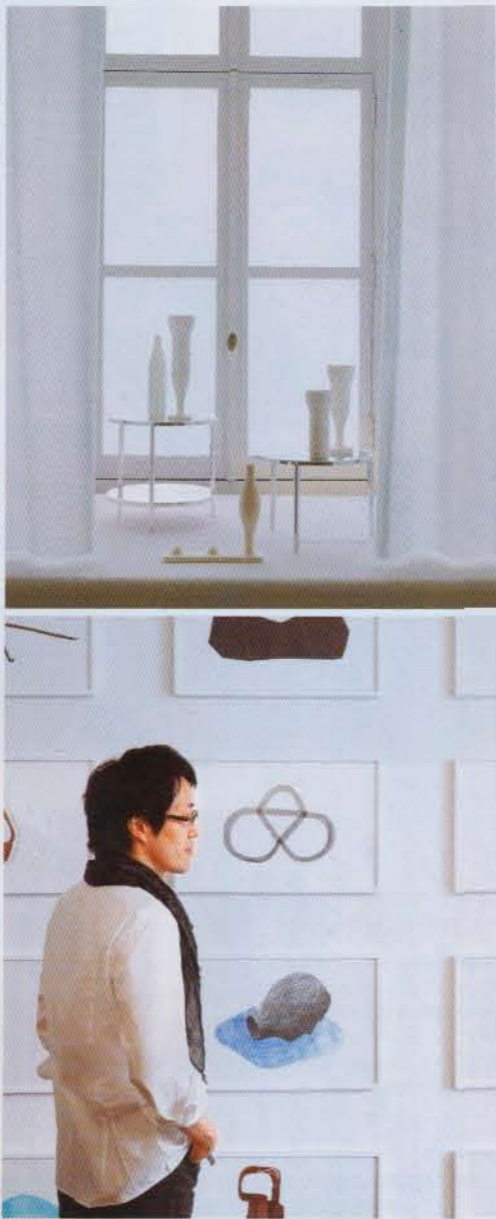
兄 色？ これですか、実はよくわからない。たぶんファン(マネジメント)担当がやってくれたと思う(照笑)。

— ロナンは研究者のような雰囲気。シャイでありながら、冷静に論理的に説明してくれます。そして「たつた」と「無関心」の差がビックリするほど激しいのです。そこへエルワン登場。

弟 いやいや。申し訳ない。

オオキ いえいえ。よく見るとエルワンの机のほうがロナンより広くない？

弟 そうそうそう。昔はひとつのデスクで一緒に働いてたんだけど、今は別。ちよいちよいレイアウトを変えているんだ。深い意味はないけどね。僕の机はね、「ジョイン」の脚にアンティーク



展示会にて。中央の大空間では「クラウド」や「アルギュ」など、「細かい要素を集積して空間を仕切る」という、ブルレック兄弟のお家芸とも呼べる作品群を大胆に展示。初期作品や、ずらりと並ぶ水彩のスケッチに大興奮。

大学のワークショップに行っている間に、僕はマジス本社に行くとサンプルチエックをしたり。デザインって、単に形を作るだけでなく、コミュニケーションが重要だと思っただよ。二人いるとその密度を高めることができる。

オオキ そういふ感じなんですか。お互いに情報を常に共有している、と。

弟 そうそうそう。あとは2つの異なる視点でデザインを精査できる。

オオキ 確かに、ハリネズミとキツネ両方の視点から同時に考えることはデザインの精度を高めるのに有効ですね。

弟 あー、でも、欠点もあって。それは、短所をつぶすには有効だけど、同時に長所も損ないかねない。時にはインスピレーションに任せ、ギリギリの際どいモノ作りも必要な気がして、二人だとそれが難しいんだよね。

オオキ まさかの「口活動」も？

弟 ソロはさすがに今すぐにはないけど……。プロジェクトにおける二人の配分に変化をつけても面白い、と最近を感じるようになったかな。うん。

— 正直、少し見くびっていました。もって職人気質だと思っていて、事務所を見学しても想定内な部分がありました。でも、彼らは最大の武器であるバランス感覚が欠点になりうることをとくに自覚し、対策を考えていると知り、鳥肌が立ちました。死角ナンです。

オオキ クライアントとのバランスはどうですか？

弟 確かに数を増やさず、集中できるようににはしている。新規クライアントは、何年も検討することもざらだし。兄 厳選といえば聞こえはいいけど、実際は事務所の規模が小さいので、そうせざるを得ない……(照笑)。

オオキ 理想ではないのでしょうか。

兄 nendo はあえて別の道を？

オオキ 違うんです。自分の場合はそ

「こそこ」のレベルのものしか作れない。でも、安定してたくさん「こそこ」を出し続けられるように……、だから200、300のプロジェクトを並走させるほうが快適なんです(笑)。10件に絞ったところで、それが30倍のクオリティになるとは到底思えない(笑)。

兄 ハリネズミとキツネみたいですね。

弟 でも、同じクライアントとの仕事はメリットばかりじゃないんだよね。

オオキ ン？ 質は上がるのでは？

弟 閉塞的になるというか、マンネリ化するよね。デザイナーは新しい技術や人との出会い、刺激がないと成長し続けられないんじゃないかな。そして、それは企業にも同じことがいえる。

オオキ 確かに。ウチの事務所の唯一の強みはそこかもしれない。経験値だけはイヤってほど蓄積されていく(笑)。

弟 最近、面白いクライアントは？

オオキ グラスイタリアとか？ たぶん、二人とメチャメチャ合うと思う。

弟 グラスイタリアはよさそうだよ。2年くらい前にオフアーイアされて考え中。

オオキ そ、そう……(汗)。

— 佐藤オオキ、カッコ悪っ！ しかもまたしても検討中！

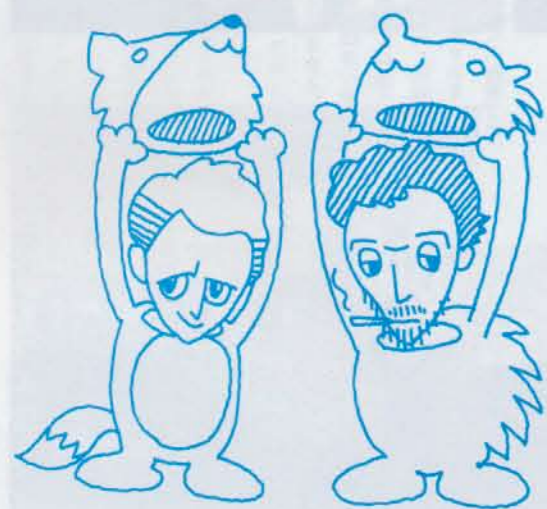
短い時間でしたが「バランス感覚」という言葉が幾度となく頭をよぎりました。二人にしか保てないバランスが確かにあり、彼らはそれを崩しては新たな均衡を求め、という答えのない作業を繰り返しているのかもしれない。

兄 ようやく見つけたんだだけ……、この本は持っていないでしょ。

— 本棚を探していたのはこれか。

オオキ 初めて見ました(ガクリ)。

— 完全勝利といった表情のロナン。今日いちばんの笑顔です。その本にスケッチを描き、プレゼントしてくれました。ようやく公式ファン認定です。(笑)



古代ギリシャの詩の一篇をたとえに使い、人間をハリネズミ型とキツネ型に分類するという話。ブルレック兄弟にこの分類をあてはめると、こうなる?! 佐藤オオキさんがイラストで表現。

FOX & HEDGEHOG
RONAN ERWAN

“じゃあ、これは? (ムキになって) この本は持っていないでしょ。相当、昔のものだからね”
— ロナン・ブルレック

を完全に無視しているのです。スケッチそのままの荒々しいワックス製の模型や、黒板の原寸大スケッチを見る限り、何度も行ったり来たりしながら最終形を炙り出していることが見受けられます。猛烈な自由とこだわりが凝縮されたモノ作りのオーラが、事務所の隅々からピンピン伝わってきます。そんなことを考えながら眺めていると、さらに気になることが。

オオキ あれ? 会議室はどこらに?
兄 ?
オオキ いや、その……、打ち合わせとかプレゼンとかしますよね?
兄 ああ、それなら自分のデスクか、あとはエルワンのデスクを使っています。それで充分なので(無笑)。
——「どうやらさういふことへのこだわりが、まったくないらしい(笑)。」

兄 あ、でも、簡単な撮影ができるスタジオがあり、すごく重宝しています。——やはり、そこは「こだわらんだ(笑)」。そういったこだわりの基準にも、ブルレックらしさを感じるから不思議です。事務所は8人で運営されています。

兄 原則としてアシスタントは新卒採用のみ。私たちはほかの事務所と働いた経験がなく、試行錯誤でやってきたので、アシスタントにも同じようなプロセスで成長してもらいたいです。

オオキ ブルレック事務所はここ数年間で、新進鋭鋭のデザイナーを多く輩出していますよね。コンスタンス・ギセ、イオナ・ヴォートランなど、デビュー間もないのにすでにフランスを代表するデザイナーですもんね。一体、この空間で何が起きているんですか(笑)。

兄 勤める方には「必ず5年間は続けてほしい」とお願いしますが、特別なことはしていません。週末は休みだし、遅い時間まで働かないから、ほかの時間で各自が活動するという感じで。



右がシャイな兄のロナン、中央が弟エルワン。「やっと同世代に会えたー! ずっと小さい子供がウロウロしていると思われてきたから、うれしいなー」と感激するエルワン。今度、向かいのバーで飲む約束も交わした。



今回はロナン&エルワン・ブルレックさんの事務所へ! ブルレック兄弟といえば、フィリップ・スタルク以降のフランスに現れた、人気デザイナーデュオです。今年、パリの装飾美術館で彼らの展覧会「MOMENTANE」(9月1日で終了)が開催。この若さでこの規模の展覧会が開かれること自体、彼らのスター性を物語っています。

展覧会では、本でしか見たことがなかった数々の初期作品との対面に、涙腺が緩みっぱなしです。ただし、そんな余韻に浸るヒマもなく、彼らが待ち受ける事務所に移動。波瀾に巻き込まれつつタクシーに乗ること30分、古い町工場や倉庫が立ち並ぶエリアの一角に、ブルレック事務所はありました。

会議室はなくとも、スタジオにはこだわる!

オオキ すみません、遅くなりました。
兄(ロナン) 全然大丈夫ですよ。
弟(エルワン) コメンコメン。この作業だけ終わらせたいんだ。ちょっと待って。ほんと「コメン」。

オオキ あ、自分のことは気にしないでやっちゃってください。お兄さんにかまってもらうので(笑)。

——「ということ、事務所見学です。古い倉庫を改装して7年前から使っているらしく、壁には手描きのスケッチやプリントアウトされたCAD図面が所狭しと貼られています。模型の端材や試作品が散乱し、さながらアーティストのアトリエといった雰囲気。布紙粘土、発泡スチロール、ウレタン、針金などもあり、素材と戯れるように造形する様子が目に浮かびます。

「ここでは「スケッチ」を描き、全体のフォルムが見えたら「CG」で検証し、小さな「模型」を作製して、原寸の「プロトタイプ」を作る、という通常のフロー